

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	地域生活支援・交流ハウスふらっと			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 21日		～	R7年 2月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	R7年 1月 21日		～	R7年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域との繋がり	・ふらっとのイベント(ふらっと展、みこし祭りなど)に地域の団体などに呼びかけて、積極的に参加していただいている。 ・SNS等を活用し、活動の発信や理解・啓発に取り組んでいる。 ・町内会に加入し、地域のお祭りやイベントの企画・運営・参加を利用者さんと共に行っている。	・ささえあい会議(高齢者の方を地域でささえる体制づくり)、重層的支援体制整備事業、子育て支援会議などに参加、協力し、まちづくりのアイデアを協議会で提案していく。 ・利用者さんの「地域で暮らし続けたい」という思いに応えるサービスを創出していく。
2	多様な関わり(お年寄り、不登校、生活困窮者、LGBTQなど)	・赤ちゃん、子育て世帯、お年寄り、不登校、生活困窮者、引きこもりの方、LGBTQなど様々な地域の方々が居場所として訪問されている。 ・お互いに小さな役割を見つけて、関わり、支え合っている。	・あらゆる方々と関わり、過ごせるよう、許し合える場作りのできるスタッフの育成を計っていく。 ・カテゴリーを決めず、誰もが笑顔で居られる取り組みを実行する。
3	1人1人の障がい特性に寄り添った支援	・障がい特性に合ったコミュニケーション技術、援助技術でリラックスして過ごせる活動を行っている。 ・本人の意思を読み取り、希望する活動を選んでもらっている。 ・家族の生活ニーズに合わせて、利用時間、内容に幅を持たせている。(ひとり親、働きたい、兄弟児の用事など)	・活動の発案や、意思決定支援など、スタッフの引き出しを増やせるような他施設の研修。 ・スタッフの視野を広げる工夫として、別業種での経験を支援する就労環境整備(社労士との会議を月1回)

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関がバリアフリーになっていない。狭いのではないかと指摘がある。	・赤ちゃんからお年寄りまで障がいも様々な方々を受け入れており、出迎えに行きたい利用者さんやスタッフ、地域の来訪者もあり、玄関が混雑する時間帯がある。 ・介助や対応に不慣れなスタッフに関わり、個々の障がい特性に十分に配慮した支援が行き届かない状況がある。	・施設内改修計画を検討し、助成金など申請していく。 ・玄関前での利用者さんへの配慮事項を明確にし、スタッフ間での情報共有を徹底する。 ・日常業務の中での介護技術の指導や振り返りを行い、スキルアップを計る。
2	夕方の人材不足	・個別対応や送迎時間にばらつきがある。 ・中堅スタッフが送迎に出ることで現場に新人スタッフが残り、支援や記録の質やスムーズな運営ができていない。	・夕方の業務を明確化。利用者さんごとの支援方法について指導する。記録や環境設定に関する研修を設ける。 ・前日に采配表の確認をスタッフグループラインで行う。
3	土日のニーズに対応し切れない。	・家族だけでは支えきれない支援度の高い方が多い。 ・土日に営業しているサービス事業所が少ない。 ・勤務できるスタッフが少なく、十分な支援体制の確保が難しい。	・週末のみのアルバイトの確保や地域のボランティアに呼びかける。 ・スタッフの支援方法のスキルアップを図る研修を行う。 ・協議会や会議などの折にふれて、他の事業所にニーズの高さを呼びかけて受け入れを増やしてもらう。